

エンバク適品種選定のポイント

① 飼料用エンバクは適期に秋播きするといずれの品種^{マキセイ}もある程度までは利用性の幅も広く作りやすい作物と言えます。しかし播種期が大きくズレた場合は播性を配慮した品種の選定が不可欠となり、更に利用目的がはっきりしている場合は利用法により適した特性を備えた品種の選定が重要なポイントになります。

② 晩夏播き年内ホールクロップサイレージ利用（立毛乾草利用）には……………「ハヤテ」!!

8月下旬～9月上旬の播種期となり、①春播性が高く早期出穂～登熟ができること。②この時期は冠さび病が多発するので強い耐病性を備えていること。③子実割合が高く耐倒伏性も備えていること等が要求され、極早生・耐病・多収の「ハヤテ」が最適です（写真参照）。



③ 乾草生産には乾草調製適性を重視!!……………「ハイオーツ」!!

「ハイオーツ」は細茎（牧草タイプ）で乾物率高く、茎割合も高く乾草調製後の嗜好性も良好です。早生で春播き性も高いため、晩夏播きから早春播きまで播種期を問わず乾草生産には「ハイオーツ」が最適品種です。

④ 青刈り多回刈利用には耐寒性と再生力を重視!!……………「太豊」!!

秋播き（標準播き）翌春利用の場合は「オールマイティ」をはじめとし、どの品種も利用性があると言えます。

しかし、西南暖地・温暖地で行われる初秋播き12月上旬青刈利用・翌春1～2回青刈利用の体系では晩生で刈取り後の耐寒性に富み、再生力が旺盛で収量性も高い優れた青刈特性を有する「太豊」がベスト品種です。

⑤ 青刈りを中心とし利用目的に幅を持たせたい場合や風よけ・緑肥栽培には……………「オールマイティ」

エンバク品種特性概要

（雪印種苗・千葉研究農場）

品 種 名	主 要 品 種 特 性					標 準 的 な 作 期			
	早晩性	草 丈	茎の太さ	耐倒伏性	耐 病 性	利用方法	播 種 期	取 穫 期	生草収量 kg/10a
ハ ヤ テ	極早生	や、低	細	極 強	冠さび病に強	秋作サイレージ	8月下旬	12月中旬	3,500
ヘ イ オ ー ツ	早 生	低	極 細	や、強		乾 草	10月上旬	5月上旬	5,000
太 豊	晩 生	高	極 太	弱		青 刈	10月上旬	12月上- 5上	6,200
オールマイティ	中 生	中	太	強		青 刈	10月上旬	4月下- 5下	6,600